



# 巻頭言 「経営マインド」 代表取締役専務 竹村 寧

今年の夏の甲子園の締めくくり、早稲田実業と駒大苫小牧の決勝戦はまれにみる好ゲームであった。めったにテレビで野球中継を観戦しないが、決勝戦の初日、偶然目に入った試合画面は一点をめぐる激しい攻防戦を繰り広げていた。結果は三十七年ぶりの引き分け再試合となり、エース同士の投げ合いは息詰まる緊迫感で高校野球史上に残る名勝負となった。

全国の多くの人々がこの甲子園の球児達に惜しめない声援を送るのは、それぞれの地元としての盛り上がりもさることながら、真夏の甲子園で最後まであきらめずに砂まみれになって一球を追うそのすがすがしさと熱意に対してだ。まさに熱

意と熱意のぶつかり合いである。仕事や人生に於いても一番大切なことはやはり熱意ではないかと思う。「何としてもこれをやり遂げたい、成功させたい」と強い熱意を持ったときには、既に半分は成し遂げられたも同然だと言っている人もいるくらいで、熱意は知恵、姿勢、組み立て方などあらゆるものを生み出してくれる源のようだ。

経営の問題も、組織の力も行き着く課題はこの「熱意の共有」にあると言ってもよいのではないかと思う。現在はITの普及、活用によって情報の共有化が図られているが、どんなに情報を共有化しようとも、必ず個々の認識には差が生じ

る。考え方が発展的で進んでいる人と、比較的保守的な人とはギャップがあり、それは仕事の進め方に現れる。考え方の違いや各人の担う役割、立場の違いによって起こるこのギャップを打ち破って、厳しい環境下で共(協)働して成果を期する為には熱意を共有することが不可欠だ。

我が社の今年度の経営方針でも、この熱意をマインドと捉えて経営方針書の最初の項目に示された。お客様にいかにも満足してもらい信頼をいただくか、プロ意識、経営マインドを高める為のテキスト「今日の言葉」も既に全社員に配布されている。また、自己啓発の助成制度も設

けられているので是非活用を図り実践してもらいたい。一人ひとりがオーナーシップの考え方や経営の視点を高めていくことができれば、会社を取り巻く環境がどのように変わろうとも将来への展望は必ず開けると思う。



## なかげんニュース What's new



ジェットムーバー 隙間に浸透して汚れを遊離させ洗浄する

いま、蒸気力が日本の清掃文化を変える！

スチーム環境クリーニングシステム ジェットムーバー

土木本部 横山 明夫

- 清掃業界では従来から、蒸気洗浄が各種の汚れ落としに有効であることは知られており、一時期、外国製のスチーム洗浄機が関心を高めましたが、
- ☑ 連続運転ができない
- ☑ 100V仕様の高性能なものがない
- ☑ 屋外では電源がなく使えない
- ☑ 装置サイズが大きく日本人のハンドリングに合わない
- ☑ 清掃方法が不明確
- ☑ 耐熱ツールがほとんどない

境クリーニングシステムです。スチーム環境クリーニングシステムは、蒸気洗浄機本体再過熱ヒーターからスチームを発生させます。さらに耐圧ホースをつなぎ洗浄する箇所(ビル・マンション・住宅・道路橋・商店街・公園・屋外設備・工場・車・その他)より最適な洗浄ツールを選び洗浄します。洗浄ツールは☑デッキブラシ☑パッドホルダー☑ハンドブラシ☑ショットガン☑ジェットガン(軽量型)☑円形ブラシ等です。

このシステムは環境性として、少ない水量で蒸気洗浄し使用汚水は処理が不要です。また、洗浄機は蒸気熱約100℃による殺菌及びカビ発生防止効果があります。作業性では機動性に優れた小型軽量機で、蒸気粒子は洗浄直後急速に気化してしまつたため、水滴飛散が少なく、歩行者等の第三者災害の心配がありません。

スチーム洗浄の秘密はドライ蒸気の粒子浸透性効果です。ドライな蒸気はミクロ粒子であり、汚れ自体や素材との隙間に浸透し、汚れを遊離させて、蒸気の本来もつ洗浄力を発揮します。従来の温水洗浄では粒子が大きく、隙間洗浄に不向きです。以上のことから、スチーム環境クリーニングシステムは、これからの環境社会に用途は拡大していくと思います。当社では1台購入し(10月入荷)8・9月に2回試験施工を行い、効果は実証済みです。今後新期事業として実績を上げ、公共工事の受注落込みをカバーしたいと思えます。

## イワレキにて 中学2年生 排水性舗装勉強会を開催

国土交通省の依頼により、中学2年生を対象とした現場見学会の一環として、イワレキ(当社のアスファルト合材工場)において、排水性舗装等の勉強会が実施されました。国土交通省の工事事務所長や職員の方、及び、当社の松下工場長の説明に、中学生も真剣に耳を傾け、実際に重機械の運転をするなど、有意義な勉強会となりました。(2006年8月3日)



## 第14回 中村建設グループ 技術発表会



7月28日(金)第14回「中村建設グループ技術発表会」を日本建設業経営協会・中央技術研究所の岩淵主席研究員を招き開催しました。今年度は8編の発表の中から左記の4編が表彰されました。

- 社長賞/稼働している工場の土間補修工事 土木本部 伊藤直樹
- 銀賞/推進工事における既設管調査方法 名古屋支店 川崎欣之
- 銅賞/仮設山留め工事のコストダウン 建築本部 黒田淑明
- 特別賞/スコープ工法による推進管の事後補修 東京支店 野中信宏